

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395600022		
法人名	有限会社 あおば会		
事業所名	グループホーム やすらぎの家 北ユニット		
所在地	愛知県あま市坂牧向江70		
自己評価作成日	平成28年1月16日	評価結果市町村受理日	平成31年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&UgyosyoCd=2395600022-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	平成31年 3月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が持つておられる個々の能力を生活の中で発揮して頂きながら楽しく生活して頂けるように支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設し今年で11年を迎えた事業所は大治町に隣接し、田畑や住宅地が点在する中にあり、木のぬくもりを取り入れた左右対称の2ユニットのホームは、民家のような落ち着いた佇まいで手入れが行き届いている。理念の「家庭的な日常生活を通して安心と尊厳ある日常生活を営む」を職員は共有しながら、日々の支援に心がけている。近年は地域行事が縮小している中で、保育園児との交流や散歩などで行き交う人への挨拶などは積極的に言う様になっている。大治町が開催する「吊るし雛」を毎年見に出かけ、地域との交流を大切にしている。日々の散歩を通して、四季の草摘みや神社へのお参りは昔の風情を楽しむ機会であったり、年賀状を書いたり趣味の切り絵などを部屋に飾ったりして今までしてきたことを生活の中で活かすように支援している。夫婦での入居もあり日常の生活を送っている。仲の良い入居者同士でお喋りをしたり部屋への行き来を楽しんだりしている。入居者はリビングで、洗濯物たたみや掃除など家庭生活の延長を思わせる家事を楽しんだり、ゆったりとテレビを見たり、歌や体操などのレクリエーションをして過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、全体会議にて話し合いを行い、理念を共有し実践につながるよう努力しています。	家庭的な日常生活を通じ安心と尊厳のある生活を営む支援を理念に掲げ、事業所内、フロアに掲示し、見て共有する意識を持つようにしている。日々のケアの中で振り返りをしたり、職員会議で話し合っ理解を深め実践につなげるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム主催の夏祭りには毎年近隣の方へチラシ及び食事のチケットを配り、参加を集めている。玄関の掃除、毎日の散歩で日常に挨拶を交わしている。	町内会に加入、地域の情報や関わりを持つ様になっている。近年は地域行事が縮小している中で、保育園児との交流や近所への挨拶は積極的に行う様になっている。3月には大治町が開催する「吊るし雛」を見に出かけ地域との交流を大切にしている。	管理者などは積極的に町内会の集まりに参加して、地域情報の収集や事業所の情報を発信し、地域との繋がりが深められるように努めていくことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議に民生委員、地域の区長さんに参加をもらい、認知症の方の生活や支援を見てもらい地区の集まりで施設の紹介をしてもらっている。今後は地域の方への貢献ができるように考えて行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度状況の報告、意見をもらい本人・家族へのサービス向上に努めている。	入居者、区長、民生委員、高齢福祉課や包括の職員の参加を得て年6回開催している。事業所の状況や活動の報告、出席者からは地域の行事や行政の情報を入手し、意見や提案等はその場で話し合ったり、職員会議などで協議し運営に活かしている。家族全員に会議の案内はしているが、参加が思わしくなく方法を模索している。	運営推進会議は、家族が参加し、意見を反映させることが目的の一つとなっているので、日程調整や行事との抱合せ、年間スケジュールの作成、勉強会など参加しやすい方法などを職員で検討し、家族へ働きかけていくことを望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議の際や福祉事務所・地域社協の毎月の訪問時、更新申請代行時に情報をもらい、必要時には電話での連絡もしている。出来る限り市社協主催の研修に参加させてもらっている。	運営推進会議に市や包括の担当者が参加し、情報やアドバイスを得ている。担当窓口には、認定書類や申請の代行業務、活動報告やサービスの内容などを伝え、良好な協力関係を築くよう努めている。市や社協主催の研修会に積極的に参加して職員の意識の向上に活かすよう努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望が見られたら職員と一緒に散歩を行い、傾聴もさせて頂いているが、時々外出されてしまう方がいる為、状況に合わせてですが、事故防止の為、施錠している時がある。	身体拘束等の資料を利用して意識を高め、スピーチロックに配慮したり、束縛感のない環境づくりに努めている。機会あるごとに拘束に対する話し合いを重ね、職員間で認識の共有を図るよう努めている。一人ひとりのその日の気分や状態をキャッチし、職員の見守りの中で開放的で自由な暮らしができるような支援を心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内のミーティング時資料を配り研修を行ったり、施設外の研修に行く等、虐待とは何かを職員で話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	積極的に活用の支援をしている。活用の中で制度を学び、理解していている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を見てもらいながら説明し、理解を得られるように取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、家族様に推進会議へ参加してもらい、意見を出してもらっている。意見を日々の支援や運営に反映させている。	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞き、記録して職員間で共有しケアにつなげている。家族からは面会時や行事などで意見や要望を聞き、日報や申し送りノートなどに記録して全体会議などで話し合い、ケアや業務改善に役立っている。やすらぎだよりを発行して家族に安心を届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時や毎月のミーティングで意見を出し合い業務に反映させている。	法人としての評価や個人面談はないが、会議の中で発信する機会はある。今年から、運営組織者が管理者となったので、施設に必要な物品等の要望は伝えやすく、支援に反映させるようにしている。	更なるサービス向上に繋げる為に、基準に基づいて、職員に個人面談を実施し、要望、意見、悩みなどを聞き、職員の意見反映、職場環境や処遇などの改善に役立てるように人事考課などの導入の検討を望みたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の業務状況(業務態度や努力等)を把握している。向上心をもって働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り研修に参加できるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会に参加し、交流する機会を深めている。その際に学んだ事をサービスの質の向上に取り組む様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り寄り添いながら好きな事、嫌いな事等を伺いながら、悩みや不安な気持ちを話して頂ける信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に対しての不安や要望などをお聞きし、安心して入居して頂けるように努めている。入居してからのご様子も、後日ご家族様へ伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の現状を教えて頂き、最も必要とされる支援の提供と、必要時には他のサービスへの橋渡しも行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の気持ち、想いを考え、ミーティングで話し合い、支え合う関係が築ける様に努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が気軽に寄って頂けたり、気軽に相談して頂ける関係を築き、ご本人のご家族に対する思いを伝えたり、ご本人の思いもご家族にも伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅と同じように、馴染みのスーパーのチラシを見て値打ちな品物を探してもらい買い出しに言っている。喫茶店への外出を継続している。	アセスメントシートで生活歴や馴染みの人や場所を把握している。交流のあった同級生が訪ねて来たり、家族の協力を得てお墓参りや法事、外食に出掛けたり、今までしてきた生活経験が途切れないよう入居者一人一人の思いに寄り添う支援を目指している。初詣の神社や近くの喫茶店などは、新しい馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係を把握し、良好で支えあえ、個々に関わりを持って頂けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援が必要な時は、その都度支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を第一にし、意向を伝えられない方へはご家族と話し合い、ご本人であれば何を希望されるかを検討している。	日々のケアの中で傾聴に努めている。入居者が一番リラックスしている入浴時や夕食後のゆったりした時間などに意向や希望を聞くようにしている。思いの表出の少ない方には表情をくみ取ったり、日々のケアの中で思いを把握したりして、日々の記録にまとめ職員間で共有してケアにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人はもちろんご家族やケアマネ、サービス業者からも話を聞き、本人の生活を把握できるように努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日ご本人の話された内容やその時の表情や態度、行動を記録しており、その中から好きなこと、嫌いな行為を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間では日々話し合い、すぐに取り組める意見はその日から反映し、状況に変化が見られる際はすぐに計画の見直しを行っている。	入居者や家族の意見を聞いたり、日常の様子を記録した個別記録を基に、月1回の全体会議で話し合い検討をしている。モニタリングは月に1度実施し、担当者会議は半年毎に行っている。状況変化があった場合はその都度見直しをしている。入居者の希望に沿えるプラン作りを大切にしている。	職員全体で、プラン内容について話し合う機会を設け、個々のプラン内容や支援目標を周知し、どの職員も同じ支援が出来る様にしていくことを願いたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の会話や行動を記録し、職員全てが確認できるように保管し、日中では分からない夜間の状態は、毎朝、夜勤者より報告をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や事業所との連携を取りながらホーム以外のサービス利用やご家族の相談援助を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で繋がって生活している事を実感してもらえるように地域の催事や近隣の喫茶店への外出を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医についての相談をご本人、ご家族と行い意向を一番に考え、ご家族の負担にも留意しながら支援している。	入居時にかかりつけ医か提携医の希望を聞いている。内科は週2回、精神科は月1回・歯科は半年に1回の往診があり、整形は必要に応じ職員の付き添いで受診し、結果は家族に報告している。看護師が週1回訪問し、健康管理に努めている。健康状態に変化があった時は、24時間体制で提携医や看護師、協力医療機関による連携体制のもと、速やかで適切な医療提供に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、協力医の看護師にも状況の変化や情報を伝え、適切な受診が受けられるように支援している。状況に応じた往診、受診をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時のご本人の情報提供や入院中の面会では情報交換や退院後の相談等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の希望を聞きながら、入居時に重度化や終末期のあり方について説明をさせて頂き、同意を頂いている。ご本人にとって最良となる方向に向けて支援できるように努めている。	看取りは行っていないが、入居時に重度化した場合や終末期についての説明と指針を明らかにしている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合はその都度入居者や家族に希望を再確認し、医師や看護師、その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の連絡網を提示し、各職員が把握できるようにし、事故発生時に備えている。消防署の指導を受け、訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	行事への参加、避難訓練への参加を近隣の方にお願ひさせて頂き、協力体制を築ける様に努力していく必要がある。	避難場所を玄関として、非常ベルを鳴らし、火災を想定した避難誘導訓練を行っている。消防署員の立会いの下での訓練も過去に行っている。近隣の会社寮の方に救助依頼の協力が得られ、地域体制を整える事ができた。備蓄は、水、食料など3日分用意してある。期限切れの水分は手洗い用に残して置くこととよいと市からのアドバイスも受けている。	夜間想定での訓練実施や水害、地震災害についても検討が必要であり、また、備蓄品の種類や期限、設置場所などを分かりやすくリスト化する等、災害に向けて誰でも対応できるように取り組んでいくことを願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人のプライドを傷つけないように言動に注意し、対応している。	「人生の先輩」を基本に、入居者一人ひとりのこれまでの生き方を尊重し、声掛けや目線に配慮した支援に心掛けている。職員は、「相手の身になってどうか」を基本に、ケアを振り返り確認し注意し合っている。特に雑になりがちな言葉使いに配慮して支援に努めている。また、管理者からは介護としての支援や、相手の立場に立って発言や行動が出来る様と対応についての指導もある。	入居者それぞれのプライバシーや立場を尊重したケアに心がけ、より良く過ごせるように居室のドア、トイレのカーテンなどの取り扱いに留意し、気配や臭い、音などを含め改良の検討を願いたい。また、職員の思い込みや先取りなど、プライドや尊厳に対しての気遣いなどにも配慮していくことを望みたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の自己主張や自己判断が困難な方が多く、多くの中から選択は難いため、二つの提示をしてどちらが良いのか、好きなのかを選んでもらえるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活状況に合わせ、その方のペースにあった形で、1日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や散髪、ひげそりの支援や、衣類の購入の困難な方もいるため、ホーム職員からクリスマスや敬老の日に好きな色や似合う衣類や靴下のプレゼントをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	チラシを見てお買い得品を探してもらい、一緒に買い出しに行ったり、皮むきなどの下ごしらえや食器拭きなどを一緒に行ってもらっている。	委託業者から調理済みの食材が届けられ栄養バランスのとれた食事が提供されている。主食と汁物は施設で調理している。片づけは入居者の保有能力に合わせ、職員と一緒にやっている。月1回の調理レクでは、入居者の希望を聞き献立を決めて買い物や調理をしている。手作りおやつや正月の黒豆を煮を作ったりして楽しんでいる。時には玄関先で食事をする時もあり、楽しみとなっている。職員も一緒に食卓を囲み見守りや食事介助をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を把握して記録をし、個々の過不足に応じた支援をしている。水分の取れない方には、ゼリーを提供したり、お茶、コーヒー、スポーツドリンク以外にも様々な用意して支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを支援し、義歯は每晚消毒をさせてもらっている。訪問歯科の検診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄間隔、習慣を把握し、トイレの声かけをさせて頂く。ズボンの上げ下げ等自分で出来る所事はして頂き、できるだけトイレでの排泄を支援している。	座位での排泄支援に努めている。日中は、布パンツにパットのみで過ごせるよう排泄チェック表を参考に一人ひとりに寄り添いトイレ誘導したり、トイレ誘導と感ぜさせない声かけやタイミングなどを工夫し、不快なく排泄が出来るよう支援をしている。夜間も、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、見守りと誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を把握し、水分の摂取や運動、服薬を支援したり、ゆっくりとトイレに入られるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきになってしまうが、個浴でゆっくりと職員とも会話をしながら多種の香りの入浴剤や季節にはゆず湯、菖蒲湯等の入浴をして頂いている。	入浴は、2日に1回実施している。入浴介助は、一人ひとりの希望やその日の状態に合わせて臨機応変に対応している。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。季節のゆず湯やしょうぶ湯で温泉気分を味わい入浴を楽しんでいる。	更衣場は、自由に出入りが可能であり、棚には様々な物が多く置かれている。目について不快になったり、塗布薬や洗剤等事故や危険防止に配慮して、清潔感のある更衣場として環境を整えることを願いたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特別決めず、ご本人の希望に応じた時間に休んで貰っている。食後や入浴後には状況に応じて休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示の下、処方薬を確実に服用できるように支援している。症状の変化が見られた際は速やかに報告し、指示を仰いでいる。変更時は各職員へ伝え、個々の処方薬を確認できるようファイルを置いてある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の中で得意な家事を行って頂いたり、歌の好きな方には日々の中で唄って頂いたり、ぬり絵、散歩等、一人ひとりに合った内容で支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物へ行ったり、近所の花を観に散歩に出掛けたり、隔月喫茶店への外出を支援している。町内の行事にも参加している。	天候や体調に合わせてできる限り散歩に出掛ける支援をしている。四季の移ろいを感じながら職員と一緒に喫茶店や買い物に出掛けたり、花壇や菜園の手入れをして外気に触れる機会を大切にしている。本人の希望を把握し家族の協力を得てドライブや季節のお花見に出掛けることもある。個々のニーズに合わせて、できるだけ入居者の思いが反映できるよう支援している。	外出が容易な方や難しい方などおり、支援に差が生じている現状であり課題としている。楽しみや気分転換、馴染みの継続支援等の効果を考慮し、家族やボランティアの協力を得たり、個別外出支援計画を立てるなどして、入所者の思いが反映できるような支援を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は大半の方が管理困難の為して頂かず、職員との買い出しに行ってもらった際に可能な方は支払いをして頂き、おつりを受け取ってもらうように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話に出て頂いたり、ご希望時やご家族からの届け物が届いた際等に電話を掛けて話してもらっている。年賀状のやり取りの支援を毎年行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物や行事や外出の写真を飾っている。トイレ前には温度差の軽減に加湿ファンヒーターを置き夜間の寒さに対応している。空気清浄機を置き、匂いへの対策を講じている。	食堂と居間の仕切りを移動させると広々としたワンフロアの共有スペースとなる。対面式のキッチンから入居者の動きや気配がよく見渡せるようになっている。居間の壁には作品が飾られている。リビングでは、軽い体操やレクリエーションをしたり洗濯物を畳んだりして過ごしている。ソファでコーナーでテレビを見てくつろいだり、それぞれの過ごし方を楽しんでいる。	入居者が使用する3か所のトイレは扉ではなく、カーテンが扉の役割をしている。また、換気扇が故障中でもあり、トイレを使用する入居者のプライバシーの配慮や音、臭気への対策が以前からの課題となっているので改善策の検討を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは食卓、ソファの好きな場所で過ごして頂き、1人の時間が過ごしたい時は玄関のソファ、居室にて過ごされたり、窓辺で日向ぼっこをしながら過ごす方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ使い慣れた物をお持ち頂くようお願いしている。御位牌をお持ちになられたりポスターを貼ったり好きなように過ごして頂いている。	居室は、使い慣れた筆筒や小物を持ち込み、安心できるスペースや環境作りをしている。また、施設設備として、ベット、タンス、カーテン、エアコンがある。自分の作品や写真を飾ったりして、本人が自宅と変わらず自分らしく安心して生活が送れるような支援をしている。職員と一緒に掃除をして清潔保持と安全に配慮して心地よい生活空間作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室がわからなくなる方が多く、迷っても自分で居室に戻れるように、居室の戸に個別の切り絵やのれんを付け判り易くしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395600022		
法人名	有限会社 あおば会		
事業所名	グループホーム やすらぎの家 北ユニット		
所在地	愛知県あま市坂牧向江70		
自己評価作成日	平成28年1月16日	評価結果市町村受理日	平成31年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&UgyosyoCd=2395600022-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	平成31年 3月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご利用者が持っておられる個々の能力を生活の中で発揮して頂きながら楽しく生活して頂けるように支援します。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設し今年で11年を迎えた事業所は大治町に隣接し、田畑や住宅地が点在する中にあり、木のぬくもりを取り入れた左右対称の2ユニットのホームは、民家のような落ち着いた佇まいで手入れが行き届いている。理念の「家庭的な日常生活を通して安心と尊厳ある日常生活を営む」を職員は共有しながら、日々の支援に心がけている。近年は地域行事が縮小している中で、保育園児との交流や散歩などで行き交う人への挨拶などは積極的に行う様になっている。大治町が開催する「吊るし雛」を毎年見に出かけ、地域との交流を大切にしている。日々の散歩を通して、四季の草摘みや神社へのお参りは昔の風情を楽しむ機会であったり、年賀状を書いたり趣味の切り絵などを部屋に飾ったりして今までしてきたことを生活の中で活かすように支援している。夫婦での入居もあり日常の生活を送っている。仲の良い入居者同士でお喋りをしたり部屋への行き来を楽しんだりしている。入居者はリビングで、洗濯物たたみや掃除など家庭生活の延長を思わせる家事を楽しんだり、ゆったりとテレビを見たり、歌や体操などのレクリエーションをして過ごしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、全体会議にて話し合いを行い、理念を共有し実践につながるよう努力しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム主催の夏祭りには毎年近隣の方へチラシ及び食事のチケットを配り、参加を集めている。玄関の掃除、毎日の散歩で日常に挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議に民生委員、地域の区長さんに参加をもらい、認知症の方の生活や支援を見てもらい地区の集まりで施設の紹介をもらっている。今後は地域の方への貢献ができるように考えて行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度状況の報告、意見をもらい本人・家族へのサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の際や福祉事務所・地域社協の訪問時、更新申請代行時に情報をもらい、必要時には電話での連絡もしている。出来る限り市社協主催の研修に参加させてもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望が見られたら職員と一緒に散歩を行い、傾聴もさせて頂いているが、時々外出されてしまう方がいる為、状況に合わせてですが、事故防止の為、施錠している時がある。身体拘束		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内のミーティング時資料を配り研修を行ったり、施設外の研修に行く等、虐待とは何かを職員で話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	積極的に活用の支援をしている。活用の中で制度を学び、理解していている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を見てもらいながら説明し、理解を得られるように取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、家族様に推進会議へ参加してもらい、意見を出してもらっている。意見を日々の支援や運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時や毎月のミーティングで意見を出し合い業務に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の業務状況(業務態度や努力等)を把握している。向上心をもって働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り研修に参加できるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会に参加し、交流する機会を深めている。その際に学んだ事をサービスの質の向上に取り組む様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り寄り添いながら好きな事、嫌いな事等を伺いながら、悩みや不安な気持ちを話して頂ける信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に対しての不安や要望などをお聞きし、安心して入居して頂けるように努めている。入居してからのご様子も、後日ご家族様へ伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の現状を教えて頂き、最も必要とされる支援の提供と、必要時には他のサービスへの橋渡しも行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の気持ち、想いを考え、ミーティングで話し合い、支え合う関係が築ける様に努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が気軽に寄って頂けたり、気軽に相談して頂ける関係を築き、ご本人のご家族に対する思いを伝えたり、ご本人の思いもご家族にも伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅と同じように、馴染みのスーパーのチラシを見て値打ちな品物を探してもらい買い出しに言っている。喫茶店への外出を継続している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係を把握し、良好で支えあえ、個々に関わりを持って頂けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援が必要な時は、その都度支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を第一にし、意向を伝えられない方へはご家族と話し合い、ご本人であれば何を希望されるかを検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人はもちろんご家族やケアマネ、サービス業者からも話を聞き、本人の生活を把握できるように努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日ご本人の話された内容やその時の表情や態度、行動を記録しており、その中から好きなこと、嫌いな行為を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間では日々話し合い、すぐに取り組める意見はその日から反映し、状況に変化が見られる際はすぐに計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の会話や行動を記録し、職員全てが確認できるように保管し、日中では分からない夜間の状態は、毎朝、夜勤者より報告をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や事業所との連携を取りながらホーム以外のサービス利用やご家族の相談援助を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で繋がって生活している事を実感してもらえるように地域の催事や近隣の喫茶店への外出を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医についての相談をご本人、ご家族と行き意向を一番に考え、ご家族の負担にも留意しながら支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、協力医の看護師にも状況の変化や情報を伝え、適切な受診が受けられるように支援している。状況に応じた往診、受診をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時のご本人の情報提供や入院中の面会では情報交換や退院後の相談等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の希望を聞きながら、入居時に重度化や終末期のあり方について説明をさせて頂き、同意を頂いている。ご本人にとって最良となる方向に向けて支援できるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の連絡網を提示し、各職員が把握できるようにし、事故発生時に備えている。消防署の指導を受け、訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	行事への参加、避難訓練への参加を近隣の方にお願ひさせて頂き、協力体制を築ける様に努力していく必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人のプライドを傷つけないように言動に注意し、対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の自己主張や自己判断が困難な方が多く、多くの中から選択は難しいため、二つの提示をしてどちらが良いのか、好きなのかを選んでもらえるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活状況に合わせ、その方のペースにあった形で、1日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や散髪、ひげそりの支援や、衣類の購入の困難な方もいるため、ホーム職員からクリスマスや敬老の日に好きな色や似合う衣類や靴下のプレゼントをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	チラシを見てお買い得品を探してもらい、一緒に買い出しに行ったり、皮むきや食器拭きなどを一緒に行ってもらっている。お好み焼きやおでん等を手作りして楽しんで頂く様にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を把握して記録をし、個々の過不足に応じた支援をしている。水分の取れない方には、ゼリーを提供したり、お茶、コーヒー、スポーツドリンク以外にも様々な用意して支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを支援し、義歯は毎晩消毒をさせてもらっている。訪問歯科の検診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄間隔、習慣を把握し、トイレの声かけをさせて頂く。ズボンの上げ下げ等自分で出来る所事はして頂き、できるだけトイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を把握し、水分の摂取や運動、服薬を支援したり、ゆっくりとトイレに入ってもらえるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきになってしまうが、個浴でゆっくりと職員とも会話をしながら入浴して頂いている。季節にはゆず湯、菖蒲湯等の入浴をして頂いている。	二日に一度、午前の時間帯で入浴し、時間、入浴介助は一人ひとりに合わせて対応している。午後の時間に足浴の支援も行われている。入浴を拒む方は声かけなどを工夫して気持ちを和ませ入浴を促したり、別の日に変えたりしている。菖蒲湯、ゆず湯なども楽しみのひとつとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特別決めず、ご本人の希望に応じた時間に休んで貰っている。食後や入浴後には状況に応じて休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示の下、処方薬を確実に服用できるように支援している。症状の変化が見られた際は速やかに報告し、指示を仰いでいる。変更時は各職員へ伝え、個々の処方薬を確認できるようファイルを置いてある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の中で得意な家事を行って頂いたり、歌の好きな方には日々の中で唄って頂いたり、ぬり絵、散歩等、一人ひとりに合った内容で支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物へ行ったり、近所の花を観に散歩に出掛けたり、隔月喫茶店への外出を支援している。町内の行事にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は大半の方が管理困難の為に頂かず、職員との買い出しに行っていた際に可能な方は支払いをして頂き、おつりを受け取ってもらうように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話に出て頂いたり、ご希望時やご家族からの届け物が届いた際等に電話を掛けて話してもらっている。年賀状のやり取りの支援を毎年行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物や行事や外出の写真を飾っている。トイレ前には温度差の軽減に加湿ファンヒーターを置き夜間の寒さに対応している。空気清浄機を置き、匂いへの対策を講じている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは食卓、ソファの好きな場所で過ごして頂き、1人の時間が過ごしたい時は玄関のソファ、居室にて過ごされたり、窓辺で日向ぼっこをしながら過ごす方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ使い慣れた物をお持ち頂くようお願いしている。御位牌をお持ちになられたりポスターを貼ったり好きなように過ごして頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室がわからなくなる方、迷っても自分で居室に戻れるように、居室の戸に個別の切り絵やネームプレートを付け判り易くしている。		